

「広げよう、自治会でつながる、笑顔の輪」

まちづくりの主役は、みなさんです。自治会加入することで、人と人とのつながりを作り、みんなでより良いまちづくりをしていきましょう。

自治会って？

普段の暮らしにおける困り事など一人では解決できないことも、地域の問題として捉え、みんな考え、支え合うことを目的とした住民自治組織です。



地区コミュニティ協議会って？

地区内の自治会、地域スポーツ協会、生涯学習振興会、子供会、高齢者クラブなどが連携し、市民が主体となった地域づくりを推進する組織です。運営体制や事務局体制の強化を図りながら、横断的な取り組みで地域の活性化に取り組んでいます。

自治会や地区コミュニティ協議会ではこんな活動をしています
～自治会や地区コミュニティ協議会は、会員の皆さまの会費と協力で運営されています～

あなたと家族に役立つ三大活動

いざというときの避難、被災復興活動

支え合うまち

災害時には消防団と連携し救出作業や安否確認、炊き出しをはじめとした自主避難所の運営を行います。また、復旧に向けた支援活動なども行います。地域全体での助け合いが、非常時に重要な役割を果たします。

日頃からの見守り、防犯・防災活動

安全・安心なまち

高齢者や子どもたちの様子を気に配りながら、日々の声掛けや見回りを行っています。また、防犯灯の設置や維持管理などの防犯活動、自主防災組織をはじめとした防災活動や交通安全の活動などを通して、安全・安心なまちづくりを目指しています。

交流や親睦による笑顔が生まれる活動

ふれあいのあるまち

お祭りやイベントなど、地域の交流事業を通じて世代を超えた交流の場を作っています。また、子ども会や老人会などへの支援も行っています。つながりが深まることで、日常の助け合いにもつながっています。

自治会行事に参加して、日頃は会わない方と知り合うことができました。住みやすい環境づくりが図られていると思います。



問合せ／本庁コミュニティ課
コミュニティG（内線4614）

インターネットからも加入手続きが可能です

自治会への加入は、これまで通り住まいの地域の自治会長へ自治会加入申込書（市ホームページからダウンロード可）を提出していただくことで加入できます。加えて、インターネットの加入申込フォームからも、加入手続きが可能です。詳しくは、コミュニティ課までお問い合わせください。



▲自治会加入申込フォーム



▲自治会に加入しましょう



地域コーディネーター

田尾 友輔さん

「人のとなりに」とは…

文字通り、その人の隣にいて、思いに寄り添うことや人柄を表す言葉「人のとなりに」をイメージしたコーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。



学校や地域、行政の間に立ち、人と人と組織をつなぐ地域コーディネーター。悠々と流れる一級河川「川内川」を舞台に、このまちの魅力を再発見し、多くの人へ伝えようと奔走する一人の男性がいる。今回は、地域の可能性を信じ、まちづくりに取り組む男性の思いに寄り添う。

「身近な人を豊かにしたい」
「どんな場所でも、与えられた場所で身近な人を幸せに、豊かにすることが好き」と笑顔で話すのは、地域コーディネーターの田尾友輔さん。
高校時代は美術を学び、その後、東京の美術大学で建築設計を専攻。建物だけでなく屋外空間のあり方を考える「ランドスケープ」に出会った。人々の暮らしと空間との関わりを学ぶ日々は、新鮮で刺激に満ちたものだったという。
大学2年生の春休み、大きな転機が訪れる。2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災。東京で被災した田尾さんは、その経験を通して建築に対する考え方が変わったという。「見た目を重視した建築ではなく、人が生きるための暮らしや環境を支える仕事がしたいと強く感じた」と話す。卒業後は東京で建築関係の仕事に就き、再開発事業などにも携わった。しかし、自身が思い描く「人の暮らしのそばにあるまちづくり」との違いを感じるようになったという。経済を回すことも大切な仕事。ただ、自分ももっと目の前で暮らす人たちが、その先の未来につながる環境づくりに関わりたいと思った」と語る。そうして転職を決意。縁

あって本市でまちづくりに携わることになり、9年ぶりにUターン。「身近な人を幸せにできる仕事があった。地元だからこそ知っていることも多くて、協力してくれる人もいる。その環境はとても大きかった」という。
「何も無い」ではなく、「気付いていなく」
Uターン後、田尾さんは「東京や京都など、多くの街では、川が人々の暮らしと密接につながっているが、帰郷して見た川内川周辺には、人の姿が少なく」と感じた。さらに、「薩摩川内市には何も無い」という声もあったという。しかし田尾さんは、その言葉に「本当に何も無いのではなく、すでにある魅力を見逃しているだけなのではないか」と違和感を覚えた。そこで、川内川を起点に、人が集い、地域の魅力に気付くきっかけをつくる。田尾さんのまちづくりは、そんな思いから始まった。

地域の力をつなぐ

田尾さんはこれまでに、「川で人が交わり、まちが変わる」をコンセプトとした「私設の公民館」SOKOKAKAKAの運営をはじめ、本市でさまざまなまちづくりに寄与する企画や事業を立ち上げてきた。



▲7月7日に川内川で開催された「水辺で乾杯」の様子

「まちづくりに正解はない。仮説を立て目標に向かって実践し、それに地域の皆さんが『まずはやってみよう』と力を貸してくださる。その過程がとても楽しい」と笑顔で話してくれた。現在は、高校生と企画するイベントや川内大綱引のPRなど、新たな取り組みも進行中だ。
「地域の力と個人の力、そして自分ができることを組み合わせながら、これからの地域の魅力を発信していきたい」と新たな挑戦への意欲が次々と湧き上がっている。
田尾さんの中には、地域をもっと面白く、もっと豊かにするためのアイデアがまだまだたくさんある。地域の魅力を未来へつなぐ挑戦は、これからも続いていく。